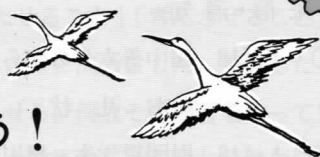


# ENJOY ROTARY!



## ロータリーを楽しもう!

会長 高橋良士 幹事 佐々木喆彦 クラブ奉仕 佐藤 衛 職業奉仕 忠鉢 徹 社会奉仕 斎藤 昭 国際奉仕 塚原初男 青少年奉仕 加藤 賢

出席報告:会員 88名 出席 66名 出席率 77.33% 前回出席率 65.33% 修正出席数 68名 確定出席率 80.00%

### 会長報告

高橋良士君

1月21日、午後1時よりグランド・エルサンに於きまして荘内分区主催の新会員セミナーが鶴岡東クラブのホストで開催され13名の会員と共に出席いたしましたので御報告いたします。

ホストの鶴岡東クラブは創立後未だ日の浅いクラブであり、ロータリーに入会してロータリーをENJOYするためには、1905年以来の歴史を有するロータリーの焦点を充分理解しようというBASISな考えのもとに、東京荏原クラブの山崎栄一氏を招き「ロータリーの創設とその背景」というテーマで基調講演がおこなわれました。山崎氏は地区情報委員長として経験豊かなロータリアンでございますが、1905年ポールハリスがロータリーを創設するに至ったシカゴの時代背景の歴史的考案と、更にロータリーが初期の段階でその目的が

物質的相互扶助であったのを、1908年アーサー・シェルドンが、キリスト教的発想から、service above self, "He profit most who serves best" というバイブルの一説をとり入れるに至った過程を大変平易にしかも興味深く解説していただきました。

次いで鶴岡西クラブの大川俊一氏からは「出席規定について」の解説があり、最後に懇親会を行いました。

いよいよ、寒の入りとなりましたが、今年は積雪量が少ないとはいえ、寒気一段と厳しくなってきました。風邪が大分流行っておりますので充分御注意下さいます様に。

### 幹事報告

佐々木 喆彦 君

## ENJOY LIFE

### 「住めば都」の心

松永輝夫

昨春、過密な東京から13回目の引越で、再び「庄内」へ。首都圏での遷都議論を考えると、いく度かの「自己の遷都」は、限られた人生の中では大きな意義もある……と思って、引越しの苦労をなぐさめてきました。

生まれ育った名古屋から、日本生命に入社して大阪、富山、松本、名古屋、鶴岡、静岡、東京へ。小さな町から大都市までお陰さまで多くの人々に支えられて職業と生活を営んできた。

この間、結婚し、子供も二人、学校も何度か転校したが良く耐えてくれた。長女も次女も運よく

学習院女短を卒業でき、長女はアメリカ留学1年のあと、昨春結婚し、次女も東京で就職した。

転勤という宿命で、生活をよぎなく変えられ大変な思いもあるが、住む土地では、子供達にもいつも「人とのふれあいを大切に」と言いきかせてきた。特に、その後は離れた人々への手紙を奨励してきた手前、いつも「切手」は自由に使えるように小箱の中にとっぷりと用意しておいた（これは効を奏した）。

私も、そこに人の営みがある限り、どこでも協力して生活できると考えるようになった。

早くも銀婚式に至った。「住めば都」の心を大切に、エンジョイライフを心がけたい。

### エンジョイライフ

◎ 来 信・通 知

- ① 1/18 田中善六PGから会報到着  
お 礼 状
- ② 1/18 財団奨学生 泉川由紀さんの奨学  
金の手続きについて  
地区委員 阿久津 肇 氏から
- ③ 1/18 RIニュース・  
ポリオプラスニュース到着  
RI日本支局から

◎ 例会変更

鶴岡東RC 1/31(水) 鱈汁例会のため  
場 所：ホテル五番館  
点 鐘：18:30

● ゲ ス ト 紹 介

松 田 士 郎 君

鶴商学園高等学校教諭  
同校サッカー部監督

菅 原 正 志 氏

略 歴

立正大卒。余目・和合中、酒東時代はバスケットボール。「ずっとバスケットをしたかった」が、身長が通用せず、大学でサッカーと出会う。49年から鶴商教員。現役時代は俊足の右ウィング。日本サッカー協会公認コーチの資格を持つ。7人家族。余目町大字南野字北野18-11。39歳

ゲストスピーチ

## 鶴 岡 市 を サ ッ カ ー の 街 に



この度の第68回全国高校サッカー選手権大会の出場にあたり、市民の方々からの沢山の御支援をいただき、心より感謝しております。過去におけるこれといった実績も伝統

もない本校サッカー部にとって、多勢の市民の方々の声援が何よりも心強い励みとなりました。

国立競技場の開会式は、私共、高校サッカーの指導者、高校のサッカー部員のみならず、今やスポーツ少年団の子供達、中学生にとっても夢であり、憧れであります。全国3,930校の中から、都道府県の予選を勝ち抜いた48校しか、そのチャンスにあたえられない、まさに「晴れ舞台」であります。

鶴商学園サッカー部監督 菅原正志氏

入場行進では、北海道を先頭に5番目に登場しました。正面スタンド前に来ると「山形県代表・鶴商学園高校!!」と大きく場内放送されました。いいまでの彼等の苦勞と努力を思い浮べるとき、心の底から「おめでとう!!」と言ってやりたい気持ちになり、不覚にも熱いものがこみあげてきました。スタンドでジッと我が子の姿を追っている父兄の中には、目頭をぬぐっておられる方も何人かおられました。試合の結果は、ごしょうちのとおり0-3で佐賀商業に破れてしまいました。サッカーに対する姿勢、勝負にかける気合、そしてなによりもそのすぐれた技術に、選手達は負けじと向っていき、善戦してくれましたが、私の指導力の未熟さゆえに勝たせることができませんでした。

そうした事も含めまして、本校サッカー部全国大会初出場までの簡単な経緯と、サッカーの現状

と申しましょうか、特に鶴岡地区のサッカー界の現状について、2、3感じる所をお話しさせてもらいたいと思います。

第1点として、指導者の事であります。昭和50年に本校サッカー部の監督となりました。その指導法も知らず、勉強しようともせず、部員の能力のなさを声高になげいているみっともない指導者でありました。自分がかつてやらされた練習方法を唯一の頼りとして部員をおこり、失敗したと言ってゲンコツをやり、負けたと言っては、罰として走らせたり、自分の言うことを全て「ハイ、ハイ」と素直に聞いているだけの選手を「良い選手だなどという、実につまらない指導者でありました。そうした指導の下に創造的で意欲にあふれインテリジェンスに満ちたサッカーなど生まれてこようはずありませんでした。そのことさえ気づいていませんでした。選手にとって、ただただ怖い監督にすぎなかったようです。

8年程前に静岡に行く機会があり、清水市と藤枝市を訪ねてみました。両市共サッカーにおける先進地域であり、私にとっては、サッカーの指導を勉強する絶好のチャンスであると考え、いくつかの有名な高校の練習を見せてもらいました。そこでは、監督はいつも声を出し、しかもその声は選手を励まし、良いプレーには必ず「ナイスプレー!!」と言う、当時の私の感覚には信じられないようなものでした。しかも選手は、ハツラツとしており、時として笑い声さえも出てきます。本当に楽しそうにサッカーをやっているのです。もちろん技術的にも高いものを持ち、自主的な練習内容であることに驚きを通り越して、あまりにもサッカーに対する価値観がちがうことに絶望的になってしまいました。鶴岡に帰って色々悩んだ結果、自分の指導法を1からやり直そうと考えました。月並な言い方をすれば「目的をハッキリさせるこ

と」「意欲を持たせること」「考えさせること」の3点を大切にしよう決めました。失敗したらおこる前に考えさせる。何故その練習をやっているのか、1人1人の技術的、体力的な目標は何か、今のチームは何を目指しているのかを具体的に自分で考えて決める。時間のかかる指導です。私のような気の短い者にとってはイライラすることの多い指導法です。しかし、考えてみるとサッカーという競技そのものが、その3点を基本にして成り立っているのではないかと気付くようになりました。サッカーでは、試合中にタイムをとって指示を出すことはできません。試合が開始されたら前半が終るまでベンチは指示を出してはいけないのです。ハーフタイムも五分間、後半グラウンドに選手を送り出したら、もうそれっきりです。刻々と変化する戦況をグラウンドに立つ選手達が「考えて」プレーしていかなければなりません。サッカーの指導者は、自分の知識を押し売りするのではなく、よりすぐれたアイデアを創り出せる選手を生み出すことに力を注ぐべきだと思います。セオリーはありますが、セオリーしか知らない選手はサッカーでは大成しません。スポ少の頃から、このあたりに視点を置いて指導してはどうかと思い毎日の練習を見ております。

第2点として、今回全国優勝した南宇和に代表されるように、地域スポーツとしての盛り上がりの必要性を感じました。長崎県の国見高校、青森県の五戸高校などは、市や町あげてサッカーというスポーツに熱中しております。そのことで地域の活性化が図られ、大変良い影響をもたらしているとのこと。人口10万弱の鶴岡市は、十分にその力を秘めているわけです。サッカーではかつて全国的に知られていた時代もあり、幾多の名選手も生んでおります。そして何よりも、「べにばな国体では当市がサッカーの会場になっておりま

す。我々現場にいる者の努力はもちろん不可欠であり一層の精進を重ねて国体の後もどんどん盛んとなって「サッカーの町、鶴岡」となることを夢みております。それが現実のものとなった時、やがて全国一のチームが生まれてくるものだと確信しております。

最後になりましたが、「庄内の人間は勝負強さがない、おとなしくて駄目だ」と、よく言われます。今回出場したチームのメンバーは、この地区では非常に元気で勝ち気な選手が揃っているのですが、やはり全国大会では「おとなしいかった」と言われました。それではどうしたら「おとなしくない選手」が生まれるのでしょうか。これも解決しなければならない問題ですが、結局「サッカーに自信を持つこと」と「おとなしくない選手と常に試合をやって、勝っていくこと」しかないように思います。確かに交通の便はあまり良くありませんが、アイディア次第でいくらでもそういうチームと試合ができます。全国大会に出ることができたのも、3年間で330試合の練習試合のほとんどを県外チームとやってもらった為だとも考えております。いつも、より強いチームを求めて、悪い条件の中でもベストのプレーができる強い精神力をつけることが近道かと思えます。しかも「楽しく、明るく、自主的に考えて、いつもわかりやすい目的、目標を持っている選手、チーム」を作りたいと夢見ています。

## 委員会報告

## 親睦委員会

中 沢 進 君

1月30日の鱈汁例会のご案内

18:00点鐘です。料理は新穂委員の御協力を頂き、たくさんのご参加をお待ちしています。余興の

オークションは、2,000円以上の品物でお願いします。

## 社会奉仕委員会

齋 藤 昭 君

30日の鱈汁例会のオークションの品物は現在たくさん届いてますが、今回は特に盛大に行かないので2,000以上で、多数の方の御協力をお願いします。

なお、どうしてもの方は、当日2,000円をお願いします。

## スマイル

御 橋 義 諦 君 県インドア軟式庭球選手権大会、壮年2部で優勝しました。「栃錦と春日野」の一文を、荘内日報に載せていただきました。

中 沢 進 君 今年初めての例会出席ですので初めてのスマイルを致します。本年もよろしく申し上げます。

## ビジター

本 間 毅 君 (温 海 RC)

阿 部 興 二 君 (鶴岡東 RC)

ロータリー財団寄附

¥ 10,082

2月6日(火)プログラム予定

新入会員スピーチ

喜田川 博 也 君